

## 会 議 録 ( 要 旨 )

会 議 名	第 2 回武蔵村山市観光協会設立検討委員会
開 催 日 時	平成 3 0 年 8 月 2 7 日 ( 月 ) 午後 7 時 0 0 分～午後 8 時 5 5 分
開 催 場 所	中部地区会館 4 0 3 集会室
出席者及び 欠 席 者	出席者：永江委員長、内野副委員長、國井委員、堀田委員、吉富委員、小林委員、谷治委員、本田委員 欠席者：沼崎委員 講 師：こだいら観光まちづくり協会事務局長 出口 拓隆 氏、小平市地域振興部産業振興課観光まちづくり担当係長 中田 智久 氏 事務局：協働推進部長、観光課長、観光課観光係長、同課同係主任
報 告 事 項	1 第 1 回武蔵村山市観光協会設立検討委員会の会議結果について 2 その他
議 題	1 観光協会設立における組織の形態について 2 その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	○観光協会事例研究～こだいら観光まちづくり協会について～ 配布資料に基づき、講師より説明いただいた。 ・ 事業の実施、財政的な自立という面からも法人格を有する方が望ましい。 ・ 事務局の人数体制は 3 人以上必要であり、デザインの能力を有する人材も求められる。 ・ スピード感、情報の公平性からの自由、ネットワークを活用した観光資源の発掘といった面も観光協会の強みである。  報告事項 1 第 1 回武蔵村山市観光協会設立検討委員会の会議結果について 会議次第に基づき事務局から報告した。  報告事項 2 その他 特になし  議題 1 観光協会設立における組織の形態について 武蔵村山市観光協会の組織形態は一般社団法人とする。  議題 2 その他 ・ 観光協会の設立趣意書を作成するにあたり、本市における観光資源等について考えておく。 ・ 次回の開催日程については、平成 3 0 年 9 月 2 6 日 ( 水 ) 午後 7 時から中部地区会館 4 0 3 集会室で開催することとした。
審議経過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)  (発言者) ◎印=講 師 ○印=委 員 ●印=事務局	観光協会事例研究～こだいら観光まちづくり協会について～ 【説明要旨】 「 1 小平市の概要」、「 2 小平市観光まちづくり振興プランの策定の経緯」について中田 智久 氏より説明いただいた。 「 3 こだいら観光まちづくり協会設立」、「 4 小平市観光まちづくり振興プランの実績に対する評価と今後の課題」について出口 拓隆 氏より説明いただいた。両者の説明の後、質疑応答を実施した。

**【質疑・意見等】**

- マンパワーの状況について確認したい。経理などを担当する者はいるか。
- ◎ 専門知識のある者がいないので、税理士に委託している。
- グリーンロード活用の経緯について確認したい。いつ頃からグリーンロードを活用していくことについて、市としてマインドチェンジがあったか。
- ◎ 平成25年の観光振興プランの策定が該当するかと考えられる。観光資源の活用については、平成24年の辺りにも取り組んでいた。
- 補助金を出すことについて、議会等の外部からの意見はあるか。また、行政側からの事業の委託を受けているか。
- ◎ 議会の方から観光についてどういったことをしているのかという意見をいただいたことはある。実際に色々な活動で動いているので、対外的なPRは重要であると認識している。また、委託については市から1件受けている。ただし、市から補助を受けている観光協会が、市から委託を受けることについては、実施主体の点から考えて不自然な点もある。財政的な自立という観点からも法人格を有することが望ましい。協会としての活動のモチベーションにも影響がある。
- 人数の面で当初は、2人でやっていたという話もあるが適切な形はあるか。
- ◎ 会員や協会の役員との連絡・調整だけで時間が取られてしまうため、事務所内には実質1人だけの状況であった。したがって、3人以上が望ましく、責任を持って職務にあたる正規の職員が必要である。また、現在はデザインのできる人材を求められる傾向が強く、こだいら観光まちづくり協会においても美術大学の学生を雇っており、冊子の表紙のデザインを自前で行っている。
- SNSでの情報発信も行っているか。
- ◎ イベント会場等からリアルタイムで発信している。また、問合せに対しても瞬時にレスポンスができるようにしている。また、情報についての公平性を求められない点も観光協会の強みである。お店を紹介する場合にも、そうした点に縛られることが無い。
- オープンガーデンのように、市民の方でも知らないような資源を探す取組をしているのか。
- ◎ まち歩きイベントを実施し、地域の観光資源を発掘している。ガイドもボランティアで実施してもらっていたが、費用弁償で一部を支払っている。
- 観光協会設立の効果の中でどれが即効性のあるものだったか。市民の方に知ってもらうという点が、最も早いと感じる。人が育つという点も興味深い。
- ◎ ガイドボランティアの例でもわかるように観光で人が育つ効果もある。ただし時間を要する。世代間交流という面もあり、イベントの開催がきっかけとして色々な効果がある。経済波及効果は、時間がかかるので知ってもらうという面での効果の即効性が高いと感じる。
- 本日は貴重なお話をありがとうございました。
- 10分程度の休憩の後、報告事項・議題の方に移行する。

報告事項1 第1回武蔵村山市観光協会設立検討委員会の会議結果について

**【説明要旨】**

会議次第に基づき事務局から一括して報告した。

**【質疑・意見等】**

なし

報告事項2 その他

委員、事務局から特になし

議題1 観光協会設立における組織の形態について

【説明要旨】

任意団体、NPO法人、一般社団法人、公益社団法人の一般的な説明を行い、団体の営利性についても補足した。組織形態ごとのメリット・デメリットについて、会議次第に基づき説明をした。

【質疑・意見等】

- 講師からのお話の中でも法人格はあった方が良いとのことであった。
- 任意団体として実施している調布市では、深大寺そばのPRが上手くできていないという印象がある。21ある商店街や植物園も観光面では、まとまった動きが取れていないように感じるので、法人格を持っている方が良いと考える。
- 公平性に囚われないという点については、観光協会の新しい枠組の中で実施できると考えるが、任意団体のデメリットである契約の主体になれないという点の影響は大きい。収益事業の実施による補助金の軽減や団体としての自立を考えたとき、一般社団法人として設立した方が良いと考える。ただし、法人格を有すると決算報告の作成の際に公認会計士のサポートが必要となったり、定款変更の手続き等も発生するため、その点についても費用がかかることに注意が必要である。
- 民間かつ法人格を有する形が良いと考える。公益社団法人は設立が難しい。26市の観光協会について見ると、2006年～2008年辺りはNPO法人として設立しているものが目立つ。ただし、2010年辺りからは一般社団法人として設立する形が主流となっている。一般社団法人が設立できるようになったのが2006年からであったので、そこに間に合わせることはできなかったものがNPOとして設立したように思う。
- 震災後、活発な活動をするために法人格を取得するNPO法人が流行した。公益性の高いものについては認証のハードルが高い、チェックが厳しいという面がある。
- それでは、武蔵村山市観光協会を一般社団法人として設立することで決定してよろしいか。

＜異議なしとして承認される＞

- 今後の検討は、一般社団法人として設立する形で進めることとする。

議題2 その他

- 次回の開催日程については、平成30年9月26日（水）午後7時から中部地区会館403集会室で開催する。
- 次回会議の中では、観光協会の設立趣意書や事務局体制について検討する。配布した設立趣意書を参考に、本市における観光資源等について各自持ち寄り形での検討をしたい。

庶務担当課 協働推進部 観光課（内線：225）